

現況把握と課題の整理

1. 墨田区の概況

(1) 位置

図 -1 墨田区の位置

墨田区は、東京都の東部、江東デルタ地帯の一部をなしています。西の区境は隅田川であり、北の区境は荒川、東の区境は旧中川となっています。

面積は、13.75km²と、東京都 23 区中 17 番目の広さです。



(2) 地形特性

区の形は、南北が約 6 km とやや長く、東西は約 5 km です。本区の輪郭は河川によって形づくられ、区の周囲約 20km のうち、17km が河川となっています。

旧利根川水系と荒川水系の河口のデルタ地帯に発達した土地であり起伏のほとんどない平坦な地形となっています。

海面からの高さ最高 4 m、最低マイナス 1.2m の平坦な低地で地質はすべて砂と粘土まじりの沖積層です。



<北方向から望む墨田区-左手が荒川、右手が隅田川>

(3) 歴史的変遷

中古・中世（～16世紀）

承和年間（9世紀）の記録に、洲田（隅田）を流れるので住田（隅田）川と呼ばれ、隅田川の渡しがはじめて歴史に登場します。当時は、区の北西部地域は農村地帯であり、また南部地域はまだ人家もまばらな湿地帯でした。

16世紀の小田原の北条氏の記録によると、墨田の北部（旧向島）と隅田川沿いの地域はほぼ形づくられていました。

近世（江戸時代）

明暦3年（1657年）の振袖火事を契機として江戸のまちが拡大し、本所地区の開発がすすめられ、北部、南部の特性がこのころより表れはじめ、当時の浮世絵にもその様子が描かれています。

振袖火事後の防火計画により、南部は、武家屋敷等の移転先に選ばれ、豎川・大横川・南北割下水の開削や区画整理を進めた結果、江戸の一部として武家屋敷を中心とした市街地となりました。

北部は、農村地帯のままでしたが、隅田川一帯は江戸市民にとって絶好の遊覧の地として多くの文人墨客の訪れるところとなり、この頃、墨堤の桜、隅田川の花火、両国の相撲が誕生しました。



< 豎川沿川の南部の様子 >
(すみだ郷土文化資料館所蔵)



< 農村地帯であった北部の様子 >
(すみだ郷土文化資料館所蔵)

近代（明治～大正）

明治期には、各種軽工業の発祥の地となり、近代工業地帯として東京の枢要な役割を果たしてきました。

明治27年（1894年）に現在の総武線が乗り入れるなど、相次いで交通網が整備され、両国に国技館が建設されるなど、にぎわいの中心地としても発展しました。

大正12年（1923年）の関東大震災により甚大な被害を受けましたが、その復興により、墨田区の現在の都市骨格や市街地構成につながる基礎が形成されました。



< 明治期の両国国技館 >

現代（昭和）

関東大震災の復興事業により、吾妻橋、厩橋、蔵前橋等が架橋され、現在の隅田川の景観がつくられました。

第二次世界大戦ですみだの7割が廃墟と化しました。一方で、戦災の被害が少なかった北部では、下町の暮らし、街並みが現在に継承されています。

戦後、焼け跡にも住宅や工場が建ち、中小企業を中心とする産業のまちとして復興しました。しかし、高度経済成長期に入り、東京への人口・産業の集中に対して、昭和30年代半ばから抑制政策がとられ、多くの工場と従業員が転出しました。工場の跡地には、公営住宅や民間の団地が建設され、人口が増加しました。

昭和60年（1985年）に、国技館が蔵前から戻り、両国国技館となり、現在の両国駅周辺の歴史・文化あるまちとなっています。



< 吾妻橋の復興事業の様子 >



< 戦災の被害の少なかった北部の様子 >

現代（平成）

平成2年（1990年）にアーチ窓が特徴的な旧第一庁舎や第二庁舎に代わり、総合庁舎・リバーサイドホールが建設されました。

平成9年（1997年）に、錦糸町駅北口で市街地再開発事業が完了し、平成12年（2000年）には、第一庁舎跡地に国際ファッションセンターが完成して、にぎわいあるまちとなりました。

平成18年（2006年）にオリナス錦糸町、平成19年（2007年）には京成曳舟駅前東第一地区の再開発ビルが完成するなど、新しい都市景観の形成が進んでいます。

平成19年（2007年）に、墨田区が誕生して60年を迎えました。



< 国際ファッションセンター >



< オリナス錦糸町 >

(4) 市街地の状況

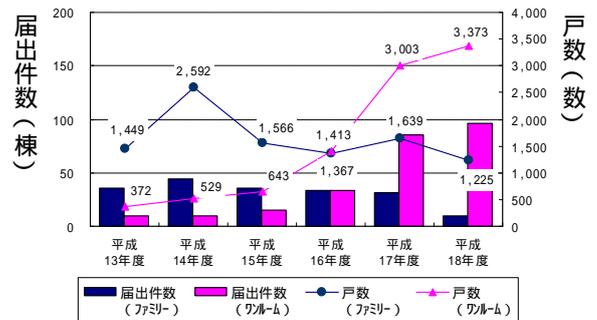
街並みの状況

墨田区の土地利用は、約6割を占める宅地において、住宅を中心に、多様な用途が混在しています。南部では、両国駅、錦糸町駅を中心として、墨田区内外を対象とする商業・業務系の土地利用が広がり、再開発事業等による大規模な開発が行われています。また、北部では、住工商が混在する市街地となっています。旧中川沿いに工場が集積し、立花・文花・横川に集合住宅や教育文化施設等の大規模な土地利用がされています。

区内では、中低層の建築物が広がる中で、駅周辺や幹線道路沿道には、高層マンション等による高層化が進んでいます。また、街区内では、道路斜線制限の特例を使うことによって、周辺から突出した高さのマンション建設がみられます。

建築物の色彩等の状況を見ると、外壁が黄色やピンク色に塗装される等、一部に周辺から突出した彩度の高い色彩の建築物が見られます。また、駅周辺では、広告物等による色彩の氾濫が見られます。

図 -2 過去6年間の墨田区内の集合住宅の建設動向



(資料:「墨田区良好な建築物と市街地の形成に関する指導要綱」届出件数)

商業地の状況

幹線道路沿いや駅周辺に商店街が形成されており、買い物客や歩く人の姿によりにぎわいのある街並みが形成されています。

商店街では看板の統一等により通りの魅力化を図っている場所があります。

駅周辺の状況

錦糸町・両国駅周辺では高層建築物や大規模施設が立地し、ランドマークとなっています。また、駅前広場や大規模開発の足元に設けられたオープンスペースと一体となり、多くの人とものが行き交うにぎわいある景観が創出されています。

一部の駅周辺では、十分な駅前広場がなかったり、建築物や工作物等の色が周辺との調和を欠いたり、駅前としてふさわしくない景観となっています。

通りの状況

墨田区は江戸からの市街地形成に加えて、震災復興及び戦災復興土地区画整理事業等により、都市基盤が形成され、現在の市街地を形成しています。

北部は、古くからの通りがそのまま残り、細街路のもつ特有の雰囲気のある道路空間として地域の個性となっています。

南部は、江戸期に形づくられた通りを活かし、震災及び戦災復興計画によりグリッドパターンの整然とした通りとなっています。

平成 18 年度東京都土地利用現況調査 墨田区集計値
 図 -3 土地利用現況図

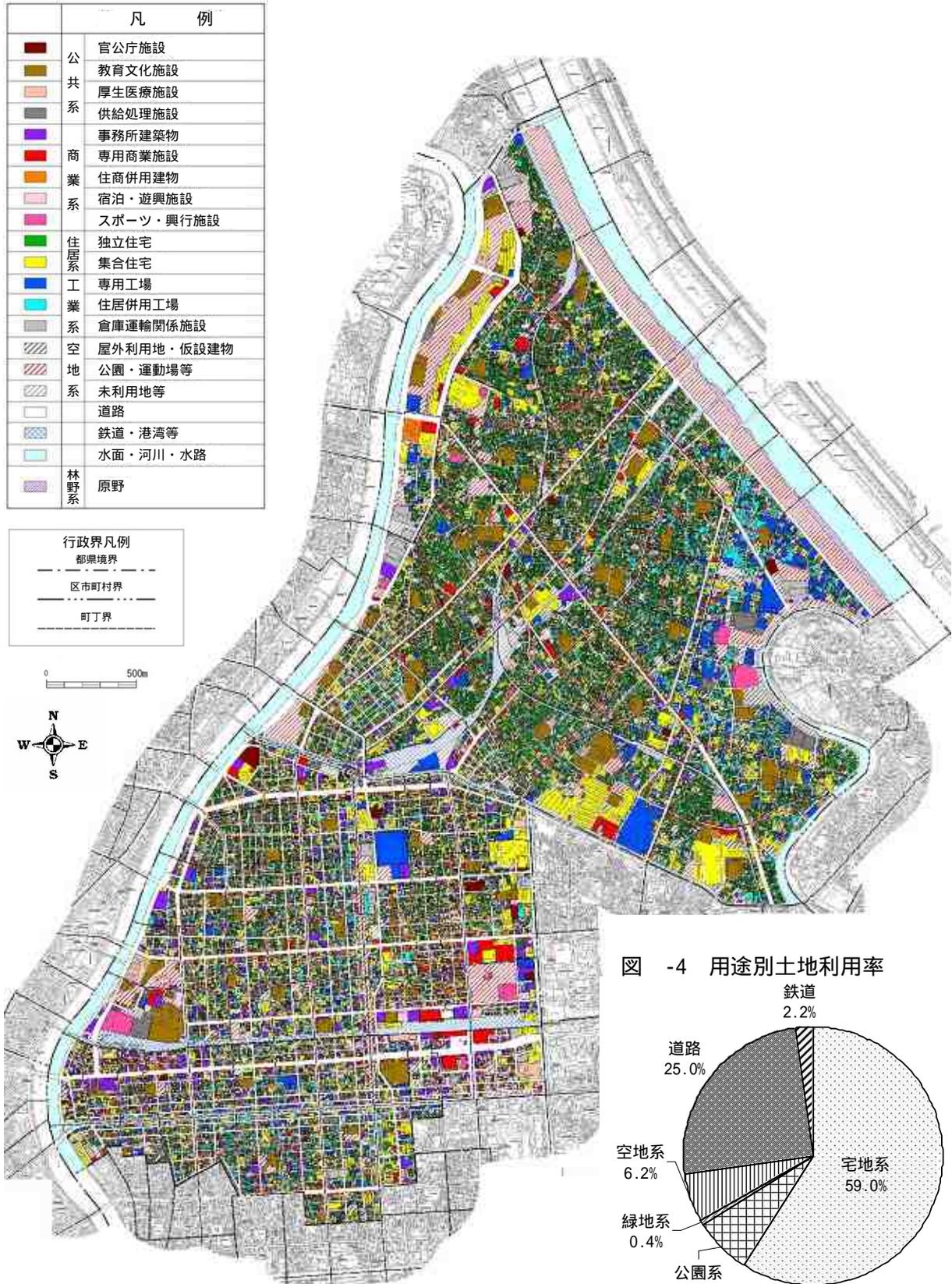
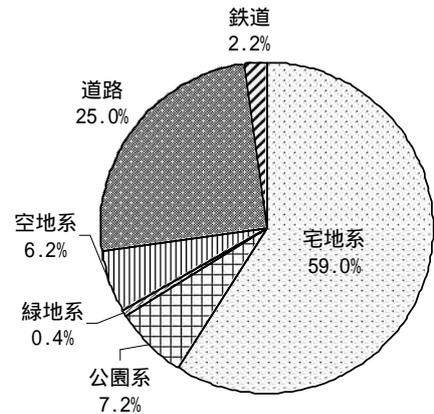


図 -4 用途別土地利用率



(5) まちづくりへの主な取り組み

墨田区では、地域の特性に応じたまちづくりに取り組んでおり、地域における主な取り組みは以下のとおりです。

図 -5 地域別のまちづくりの状況



 墨田区まちづくり条例の活用によるまちづくり

墨田区まちづくり条例の活用によるまちづくり

区内では、地区の課題や特徴をふまえ、区民が自主的に地域のまちづくりを行うとして、墨田区まちづくり条例にもとづく「地区まちづくり団体」を結成している地域があります。これらの地域では、様々な課題等に対する検討や地域のコミュニティを活性化するためのイベントの開催などに取り組んでいます。

地区まちづくり団体名	活動区域
一言会 (一寺言問を防災のまちにする会)	向島五丁目・東向島一丁目・東向島三丁目・堤通一丁目
北斎通りまちづくりの会	亀沢一～四丁目
ちぎり会	両国四丁目
両国まちづくりの会	両国三丁目中部地区

押上・業平橋駅周辺のまちづくり

墨田区都市計画マスタープランで広域総合拠点として位置づけられている押上・業平橋駅周辺地区では、新タワーの建設、押上・業平橋駅周辺土地区画整理事業、業平橋押上地区開発事業等の実施により、広域総合拠点としてふさわしい複合市街地の形成を目指したまちづくりが進められています。

京島地区のまちづくり

京島二～三丁目地区では、「京島地区まちづくり協議会」が昭和56年に発足し、「京島地区まちづくり計画(大枠)」を定めました。このまちづくり計画(大枠)にもとづいて、生活道路の拡幅整備、ポケットパークの整備、建物の不燃化促進やコミュニティ住宅の建設など、密集市街地におけるまちづくりが進められています。

曳舟駅周辺のまちづくり

墨田区都市計画マスタープランで広域拠点として位置づけられている曳舟駅周辺では、京成押上線の立体事業にあわせて、曳舟駅前地区・京成曳舟駅前東第一地区・京成曳舟駅前東第二南地区第一種市街地再開発事業等の実施により、沿線の周辺整備を進めています。

鐘ヶ淵周辺のまちづくり

鐘ヶ淵周辺(墨田一～五丁目、東向島四～五丁目)では、防災都市づくりを推進するとして、鐘ヶ淵通りの拡幅整備や沿道のまちづくりが行われ、また、地元においては、鐘ヶ淵地区まちづくり懇談会により、地区のまちづくり計画についての検討などが行われています。

(6) 墨田区を特徴づける境界の状況

墨田区内では、各地域でそれぞれの歴史や市街地形成過程を反映した特色ある境界が形成されています。

図 -6 地域の区分



堤通・墨田・八広地域

隅田川と荒川の豊かな水と緑に恵まれ、低層を中心とした住宅が多い地域です。狭い路地や長屋等、下町らしい街並みが残る一方で、近年マンションの建設が進行しています。

隅田川周辺には防災拠点である白鬚東団地が立地し、近年大規模工場跡地に高層の都営アパートが建設されています。また、七福神巡り等の観光ルートがあります。

鐘ヶ淵、八広駅周辺は、まちの表玄関としての役割を果たしています。東京都防災都市づくり重点地区の整備計画で東武伊勢崎線と鐘ヶ淵通りの立体交差化が描かれています。押上駅から八広駅間の京成押上線連続立体事業が現在事業中です。

また古くから残る大正通りや玉の井いろは通り等の商店街が地域の活気を醸しだしています。

向島・京島・押上地域

隅田川に接し、向島百花園等の歴史資源や向島料亭街等の街並み残り、歴史が感じられ、古くからの商店街等により長く培われてきたコミュニティが感じられます。

向島・京島等は、路地や長屋、庭先の小さな緑により、日本の古き良きヒューマンスケールの境界が残っています。向島・京島は、密集住宅市街地整備促進事業等を活用した防災まちづくりが進められ、都市基盤の整備やコミュニティ住宅の建設が行われています。

押上・業平橋駅周辺地区では、新タワーの建設が予定され、土地区画整理事業や北十間川等の関連施設の整備により、広く魅力を発信するまちづくりが進められています。

京成線高架化や曳舟駅周辺地区のまちづくりが進められています。

東墨田・立花・文花地域

荒川と旧中川、北十間川に囲まれ、工場と住宅が中心となっている地域です。また、東墨田地域には工場やスポーツ関連等の公共施設等があり、立花・文花地域には大規模な公営住宅等が立地しています。

旧中川沿いには、工場等の大規模建築物群と中低層の高密な市街地の街並みが形成されており、遊歩道等、親水化整備が進められています。また、小村井駅周辺等では、大規模集合住宅の建設が進んでいます。

吾妻橋・本所・両国地域

隅田川に面し、旧安田庭園や大横川親水公園等の豊かな緑と水辺のある地域です。

両国駅周辺は、両国国技館、江戸東京博物館、旧安田庭園及び横網町公園等の歴史・文化資源が存在し、また相撲部屋が多く点在する等、日本の伝統文化が感じられる場所となっています。また、地場産業であるファッション関連産業の産地と消費地を一体としたファッションタウンづくりが進んでいます。

吾妻橋は、浅草から新タワーへの入口となる、区役所をはじめとして新しいすみだの顔となる場所となっています。

北斎館の建設計画等、北斎通り周辺の文化・観光資源づくりが進められています。

地域北側の押上・業平橋駅周辺地区では、新タワーの建設が予定され、土地区画整理事業や北十間川等の関連施設の整備により、広く魅力を発信するまちづくりが進められています。

業平・錦糸・江東橋地域

墨田区の表玄関ともいえる錦糸町駅周辺地区と、広く魅力を発信するまちづくりが進む押上・業平橋駅周辺地区の間に、碁盤目状の整然とした市街地が形成されています。錦糸公園や大横川親水公園等の豊かな緑や水辺、北斎通り等の魅力的な通りがあります。

錦糸町駅周辺地区は東京副都心に位置づけられ、東京東部を代表する商業・業務の集積している地域となっています。大規模開発が完了するとともに錦糸公園の再整備が進められています。

地域北側の押上・業平橋駅周辺地区では、新タワーの建設が予定され、土地区画整理事業や北十間川等の関連施設の整備により、広く魅力を発信するまちづくりが進められています。

緑・立川・菊川地域

隅田川に接し、首都高速道路等の大動脈となっている道路、豎川や大横川により街並みを形成しています。大横川親水公園等の緑が潤いを与えています。京葉道路では、電線類地中化工事が進められ、豎川では護岸改修が事業中です。

回向院や吉良邸跡等の歴史・文化資源が多く存在します。

菊川駅周辺や幹線道路沿いを中心に、マンション建設が進んでいます。

2. 景観特性の把握

(1) 景観特性の設定の考え方

墨田区は、区の境界部を流れる隅田川や荒川等が区の地形や骨格を形づくり、長い歴史の中で、武家屋敷や庭園、社寺仏閣ができてきました。また、震災・戦災復興により、基盤整備の整った市街地が形成されたことにより、都市的な街並みとなっています。

これらの自然、歴史、都市的要素が墨田区の景観特性となっており、特に墨堤の桜や隅田川等が、人々の心に墨田区のイメージとして受け継がれています。このことから、施設の管理者(国、都、区等)にとらわれず、景観特性を以下の4つの要素に設定しました。

自然系 - 本区の地形特性等が反映され、景観の骨格を形成している要素

歴史系 - 過去の社会・経済やまちづくりの痕跡を現在にも伝え、都市の個性を表す要素

都市系 - 現状の産業、文化活動等の基盤となっている交通基盤、施設・建築物等の要素

心象系 - 区民、都民等の多様な視点から親しまれている墨田区の特徴的な要素

(2) 景観特性の分類と概要

景観特性の分類は、以下のとおりです。

表 -1 景観特性の分類と概要

分類		概要
自然系	河川、公園等	河川、河川沿いの緑、公園、路地の植栽等
歴史系	社寺仏閣、博物館、歴史的建造物等	各時代を代表するような建造物をはじめ社寺仏閣、伝統や文化を継承する資源等
都市系	道路、鉄道、橋、ランドマーク、駅前、土地利用等	幹線道路や高架構造物、河川と道路の交点となる橋梁、特徴的な街並みや境界、駅周辺や商店街等
心象系	伝説、校歌の歌詞や句等に詠まれる風景、行事・祭事等	語り継がれる伝説、歴史、隅田川等の河川、花火大会をはじめとする各種イベント、校歌に詠われる地名等

自然系景観特性

墨田区は、隅田川や荒川等の大河川や区内を縦横に流れる江東内部河川の流れる「水の都」です。また、大規模な公園やまちなかの緑が点在しており、これらがまちなかに水と緑の潤いを与えています。

ア．河川

すみだを縁取る

墨田区は、一級河川である隅田川、荒川や旧中川が隣接区との境界を流れており、豊かな水と緑の空間で縁取られています。



< 隅田川 >

豊かな景観

大河川とその河川沿いの街並みにより形成される河川空間は、視界の開けた開放感のある豊かな景観を形成しています。



< 旧中川 >

憩いの場の形成

大河川の水辺は貴重な自然に恵まれたレクリエーション拠点として、早慶レガッタ、墨堤さくらまつり等の四季折々季節を活かした行事が行われ、区民や区内外の人々にとって憩いの場となっています。



< 早慶レガッタ >

まちを潤す江東内部河川

北十間川、豎川等の区内を縦横に流れる江東内部河川は、排水、治水、水運の各方面から都市基盤施設としての機能とともに、身近な水辺を提供する役割を担ってきています。



< 北十間川 >

イ．大規模な緑

歴史・文化を伝える緑

旧安田庭園、横網町公園、向島百花園をはじめ貴重な歴史・文化的資源である公園等が区内に点在し、豊かな緑空間を形成しています。



< 横網町公園（東京都慰霊堂） >

憩いの場としての緑

荒川四ツ木橋緑地、錦糸公園、隅田公園、東白鬚公園等の規模の大きな公園が立地しており、レクリエーション拠点として親しまれています。



< 隅田公園 >

ウ．身近な緑

まちなかのオアシス

区内には、小公園や歴史・文化を伝える社寺仏閣等の緑が点在しており、まちなかのオアシスとなっています。



< 本所松坂町公園 >

懐かしさを感じさせる下町風情

墨田区の特徴である路地空間には、小さな緑が育てられ、庭先のように手入れしている風景が懐かしさを感じさせ、下町風情として親しまれています。



< 路地の緑 >

図 -7 自然系の景観特性に関わる主な資源の分布状況



歴史系景観特性

歴史・文化を伝える社寺仏閣、両国周辺の相撲に関わる街並み、すみだのものづくり文化を発信する施設等が、すみだの特色ある景観要素となっています。

ア．社寺仏閣

隅田川七福神

隅田川七福神(墨田区無形民俗文化財)として、向島百花園(福禄寿)・多聞寺(毘沙門天)・長命寺(弁財天)・弘福寺(布袋尊)・三囲神社(恵比寿・大国神)・白鬚神社(寿老神)は、観光・歴史拠点として多くの人々に親しまれています。



<多聞寺>

歴史・文化を伝える資源

相撲のまち両国の起源となった回向院や、法恩寺、牛島神社等の社寺仏閣が歴史・文化を今に伝えています。



<回向院>

イ．資料館、博物館、学習施設

文化拠点

両国駅周辺は、国技館と江戸東京博物館、国際ファッションセンターが立地し、伝統文化を過去から現代、未来へとつなげる文化拠点となっています。



<国技館>

小さな博物館

中小企業が多く立地する墨田区では、工房に併設する展示スペース等を「小さな博物館」として観光客にも開放する等、ものづくり体験の楽しさや歴史を伝え、新たな歴史、観光資源となっています。



<小さな博物館>

ウ．相撲に関わる施設等

相撲文化

相撲は日本が誇る伝統的文化であり、両国を中心に集まる相撲部屋や、場所中の国技館ののぼり等、個性的なすみだの街並みをつくりだしています。



<カシのオブジェ>



<国技館ののぼり旗>



<相撲部屋>

エ．その他

河川

隅田川や、北十間川、大横川、旧中川等の河川は、かつての人々の活動を伝える歴史を有しています。



<横十間川>

向島料亭街

向島料亭街等、江戸時代の雰囲気、通りや商店街として現在にも継承されています。このような界隈は、その面影は薄れてきていますが、料亭街としての佇まいが残っています。



<向島料亭街>

図 -8 歴史系景観特性に関わる
主な資源の分布状況



凡例

大分類	小分類		
歴史系 景観	社寺仏閣		国指定文化財
	資料館、博物館、学習施設		都指定文化財
	相撲関連施設		区指定文化財
	都選定歴史的建造物		登録文化財
	景観上重要な歴史的建造物		保存樹木
回遊 ルート	歴史と文化の散歩道（言問コース） すみだ散策モデルコース（向島を味わおう・隅田川七福神めぐり） 史跡めぐりコース（隅田川七福神めぐり）		
	歴史と文化の散歩道（日本橋本所深川コース） すみだ散策モデルコース（花のお江戸にタイムスリップ）		
	すみだ散策モデルコース（ゆかりの文人・史跡）		
	すみだ散策モデルコース（すみだの産業をかいま見る）		
	史跡めぐりコース（忠臣蔵史跡めぐり）		

都市系景観特性

多くの人が集まり、にぎわいやふれあいの場となっている駅施設や商業施設、橋や高架構造物、個性ある商店街等が、それぞれ地域の表情ある街並みを形成し、多様な都市景観を形成しています。

ア．ランドマーク

高層建築物や歴史的建造物等

高層建築物や大規模開発は、日常生活や生活意識の中で移動する際の目印となるものです。また、東京都復興記念館や隅田川に架かる橋等も墨田区の歴史・文化を継承する区民に親しまれる施設であり、視覚的にも、心理的にもすみだのランドマークとなっています。



< 墨田区役所 >

新タワー

新タワーは、新たなすみだのランドマークとなることが期待されます。



< 新タワーイメージ >

(提供：東武鉄道(株)・新東京タワー(株))

イ．活動の拠点

コミュニティ拠点

小中学校や集会施設等は地域の会議やスポーツ大会等に活用され、コミュニティの拠点として、人々に親しまれています。

緑の拠点

小中学校の校庭や集合住宅の共用スペースには花や緑が多く植えられ、緑の拠点としてまちに潤いを与えています。



< 墨田一丁目第2アパート >

ウ．橋

墨田区への表玄関

区境界部にある河川の橋は、地域をつなぎ、墨田区への入り口としての表玄関になっています。



< 吾妻橋 >

街並みのアクセント

道路と色彩や意匠が異なるものが多く、橋詰と一体的な空間として街並みのアクセントとなっています。



< 桜橋 >

エ．主要な通り

街並みを形成する骨格

幹線道路、商店街等の様々な通りがまちの特徴をつくりだし、まちの骨格を形成しています。



< 京葉道路 >

沿道の街並み

幹線道路には商業業務施設が建ち並び、商業併用住宅が建つなど、区間ごとに様々な街並みをつくりだしています。

道路のバリアフリー

障害者やお年寄り等のために歩道上の段差を解消することや点字ブロック上の放置自転車対策が求められます。



< 案内板と点字ブロック >

オ．高架構造物

景観の分断と修景

鉄道、道路高架構造物が市街地を区切り、景観の分断要素となります。



< 首都高速道路6号線（向島線） >

高架下の活用

高架下は、鉄道では飲食施設や商業施設、博物館等としての活用や、高速道路ではテニスコート等のレクリエーションスペースとして活用されています。



< 鉄道高架下の東武博物館 >

カ．商店街

下町らしい活気

古くから続く向島橋銀座商店街、鳩の街通り商店街をはじめとして、それぞれの商店街が下町らしい活気を残しています。



< 下町らしい活気 >

沿道の商店街

商店街の中に住居やシャッターの閉まった店がある等、商店街の活性化が求められます。



< 商店街 >

キ．駅前

まちの表玄関

駅はまちへの表玄関となり、また駅周辺地区はまちの顔となる場所であるため、多くの人とものが行き交う活動の拠点として、駅周辺の活性化が求められます。



< 錦糸町駅 >

ユニバーサルデザイン

駅前のまちの案内や誘導等、ユニバーサルデザインへの配慮が求められる場所があります。



< 駅前の案内 >

ク．街並み

混在する街並み

周辺の都市基盤の相違や用途、建設時期等の違いによる建築物の立地や、周辺から突出した高層マンションの建設等により、調和に乏しい街並みがあります。



< 京島周辺の街並み >

路地の街並み

向島や京島に見られる緩やかにカーブするヒューマンスケールの旧道や、玄関先の緑、木造の長屋が立ち並ぶ姿が下町らしい人々の息遣いを感じる街並みをつくりだしています。

北部の街並み

墨田区の北部は、戦前から残る細街路と低層木造の住工併用の建築物が密集した地域で、軽金属や雑貨を中心とする作業所や工場が混在し、雑然とした中にも生活感あふれた活気ある街並みとなっています。



< 北部の街並み >

南部の街並み

墨田区の南部は、江戸期にその原型を成したグリッドパターンによって現在の整然とした通り景観を構成し、これらに沿って業務・商業地区が形成されています。その内側では、住工併用の小規模な作業所や製造所等が混在した街並みとなっています。



< 南部の街並み >

図 -9 都市系の景観特性に関わる
主な資源の分布状況



凡例

大分類	小分類	
都市系 景観	ランドマーク (高層建築物や歴史的 建造物等)	
	活動の拠点となる場所 (学校、団地等)	
	橋	
	主要な通り	
	鉄道	
	(高架)	
	(地上)	
	(地下)	
	高速道路(高架構造物)	
	商店街	
	駅前	

心象系景観特性

桜や花火の名所となる隅田川を中心とした要素が、これまで人々の心の中やまちの印象として受け継がれており、まちの記憶として墨田区のイメージをつくりだし、すみだの特徴ある景観のひとつの要素となっています。

ア．語り継がれる伝説、歴史

梅若伝説、本所七不思議等

謡曲「隅田川」の題材である梅若丸の伝説や、江戸時代頃から伝承される本所七不思議は、全国に知られています。



< 梅若権現御縁起 >
(すみだ郷土文化資料館所蔵)

隅田川七福神

文化年間創始と伝わる、七福神を巡る新春を祝う行事です。現在では、散策コースに位置づけられ、一年中、多くの人でにぎわっています。



< 隅田川七福神 >

墨田区にゆかりのある地、文人等

本所界隈は江戸の文化が花開き、ヨーロッパにも多大な影響を与えた葛飾北斎等、多くの文人のゆかりの地があります。江戸時代の俳諧師である松尾芭蕉とその一門や幕末の江戸幕府に多大な影響を与えた勝海舟や山岡鉄舟のゆかりもあります。また、赤穂浪士討ち入りで名高い吉良邸の一部は、現在は本所松坂町公園であり、討ち入りの日には、義士祭、吉良祭が開かれています。



< 義士祭 >

震災・戦災の歴史

墨田区は、関東大震災や東京大空襲で多大な被害を受けています。東京都慰霊堂には、関東大震災と東京大空襲の犠牲者が安置されており、春と秋に大法要が行われています。



< 大法要（東京都慰霊堂） >

イ．心に残る風景

四季折々の風景

隅田川は、墨堤さくらまつりなど、四季折々に江戸明治以来引き継がれている祭事やイベントが開催されており、区のイメージを象徴する存在として人々の心に残っています。



< 墨堤の桜 >

祭などにおける活気ある風景

全国的に知名度のある隅田川花火大会、日本の伝統文化である相撲などがまちに活気を与えるとともに、人々の心に残る風景となっています。



< 隅田川花火大会 >

< 主な祭事、イベントが行われる場所 >

社寺仏閣

牛嶋神社例祭や隅田川七福神めぐり等が開催されており、観光名所のひとつとなっています。

河川

隅田川では、花火大会、早慶レガッタ、墨堤さくらまつり等が開催されています。

公園

旧安田庭園での納涼の夕べや、錦糸公園でのすみだまつり等、多くのお祭りやイベントが開催されています。

文化施設

江戸東京博物館で行われるすみだ太鼓まつりや国技館で行われる大相撲等も周辺のまちに風情や活気を与えています。

主な祭事・イベント

場所	主な祭事・イベント名
牛嶋神社	例祭
隅田川七福神	隅田川七福神めぐり
隅田稲荷神社	万燈御輿
香取神社	香梅園梅まつり
隅田川	隅田川花火大会 早慶レガッタ
隅田公園	墨堤さくらまつり
旧安田庭園	納涼の夕べ
向島百花園	月見の会 虫ききの会
東白鬚公園	鯉のぼりフェア すみだイルミネーション
錦糸公園	すみだまつり
本所松坂町公園周辺	吉良祭、義士祭 元禄市
豎川親水公園	錦糸町河内音頭
東京都慰霊堂	春季大法要、秋季大法要
江戸東京博物館	義士茶会 すみだ太鼓まつり 技人展
国技館	大相撲一月場所、大相撲五月場所、大相撲九月場所 第九コンサート

ウ．文学作品等の題材とされた風景

○浮世絵などに描かれた風景

葛飾北斎によって描かれた「新坂浮絵三囲牛御前両社之図」や「両国橋夕陽見」等の作品には、区の歴史・文化を伝える風景が描かれています。



<新坂浮絵三囲牛御前両社之図>
(墨田区蔵)

○ふるさとへの思い

校歌や和歌等に、隅田川や荒川等の河川や桜、地名が詠われ、区民のふるさとへの思いを強くイメージづけています。



<隅田川>

<主な文学に詠われた場所>

河川

河川は「隅田川」「荒川」「横川」「中川」「竪川」等が題材となり、河川名だけでなく、「隅田川の流れ」「隅田の川水」「隅田の堤」「荒川堤」等が取り上げられています。

地名

地名は「柳島」「向島」「本所」「業平」等、主に学校周辺の地名が校歌の歌詞等に詠われています。

桜

墨田区の木として、「すみだの桜」「墨田の桜」等校歌の歌詞や和歌に詠われています。

つつじ

墨田区の花として、親しまれています。

校歌の歌詞や和歌等に詠われた
主な場所

隅田の流れ	竪川
隅田の川水	吾孀の森
隅田川	吾孀森
隅田の春	東吾孀
隅田の堤	すみだの桜
荒川	墨田の桜
荒川の岸	柳島
荒川堤	向島
横川	本所
中川	業平

3. 景観まちづくりの課題

墨田区の景観特性とともに、新タワーをふまえた景観まちづくりに区民、事業者、区の協働により取り組む観点から、課題を次の4つに整理します。

すみだの特徴となる景観を継承することが求められます

景観要素の中で特に、区の骨格構造となっているものや、区のイメージとして代表される特徴的なものをすみだらしさとして保全・活用することが必要です。

【継承すべきすみだの景観特性】

- ・ 隅田川は桜並木や花火大会等、区民に親しまれる要素が存在します。
- ・ 荒川は、川幅の広い河川で、河川敷には野球場や運動公園が設けられており、区民のスポーツ・レクリエーションの場となっています。
- ・ 河川に架けられる橋は、河川のランドマークであり、眺望景観の視点場としてまちを特徴づける要素となっています。
- ・ 路地空間等の下町風情や向島料亭街、両国の大相撲、伝統工芸等、歴史・文化が息づいています。
- ・ 向島百花園や旧安田庭園等、歴史的、文化的な意義のある公園が存在します。

【課題】

- ・ これまで培われてきた、すみだの歴史・文化を守り受け継ぐとともに、新しい街並みの創出、観光等のまちづくりに活かすことが求められます。
- ・ まちの歴史とともに育てられ、親しまれてきた、南部北部それぞれの地域を特色づける景観を大事にし、また歴史的な要素が比較的まとまっている街区での歴史ある界隈を保全していくことが求められます。
- ・ 本区の特徴的な空間である路地空間は、防災に配慮しながら、コミュニティによる潤いある空間演出を受け継ぐことが求められます。
- ・ 大名屋敷跡等、由緒ある庭園・公園の自然とともに、その背景となっている歴史や文化の継承が求められます。



< 墨堤の桜 >



< 隅田川花火大会 >

新しいまちづくりと連動した景観の創造が求められます

新タワー建設を核としたまちづくりや、駅周辺等でまちづくりが進められており、これらと連動した、新しいすみだの景観づくりを進めていくことが必要です。

【新たな景観形成に関わる景観特性】

- ・新タワーは、東京の新たなランドマークとして、周辺を含めた質の高い都市景観の形成が期待されます。
- ・北十間川の親水整備により、船着場や人道橋が整備され、これにより、水辺拠点の形成と水辺のにぎわいネットワークの形成が期待されます。
- ・京成押上線の立体事業にあわせた駅周辺のまちづくりの一環として、防災性の向上、地域の活性化、土地の高度利用が図られます。

【課題】

- ・新タワー建設を活かし、広域的連携もふまえたネットワークを形成する等、東京・すみだの新たなランドマークとなる都市景観の創出を目指すことが求められます。
- ・市街地再開発事業や土地区画整理事業、電線類地中化、商店街関連事業等、まちの改善や再整備にあわせ、周辺環境に配慮した新たな景観まちづくりが求められます。
- ・広域総合拠点・広域拠点・生活拠点 では、まちづくりや民間開発が進められる等、これらの拠点を核としたまちづくりが求められます。



< 新タワーのイメージ >
(提供：東武鉄道(株)・新東京タワー(株))



< オリナス錦糸町 >

広域総合拠点・広域拠点・生活拠点・・・墨田区都市計画マスタープランに位置づけられる、墨田区の個性や魅力を生みだし、各種の機能の集積を誘導する地区。その集積状況や地域の特性にあわせて、都市の活力やにぎわいを高めていくこととされています。

地域の特性に応じて景観を守り、育て、再生することが求められます

東京都の副都心として位置づけられる錦糸町駅周辺等の拠点的な景観や区内を縦横に流れる江東内部河川、商店街や住宅街等、区内では多様な景観が形成されています。地域の特性に応じた景観まちづくりを進める必要があります。

【多様な地域特性にかかわる景観特性】

- ・両国や錦糸町、隅田川等、東京の広域的な都市景観を構成する要素が存在します。
- ・区内を縦横に流れる江東内部河川等の自然環境や豊かな景観が存在します。
- ・区内は概ね中低層の住宅を中心としつつ、多様な用途の市街地が形成されている中で、建築物の近代化や高層化が進みつつあります。
- ・JR線、京成線、東武線、地下鉄や高速道路の路線が走り、高架構造物がまちの分断要素となっています。また、駅は区の表玄関の機能があります。
- ・旧来からの商店街等が多く分布し、まちなかのコミュニティ形成の場やにぎわい創出の場となっています。
- ・近年、道路斜線制限の特例をつかうことによって、周囲から突出するマンション等が建設されています。

【課題】

- ・水や橋を残すことにより水辺の本来の姿を大切に、また、水辺での人々の様子と対岸のまちの風景との調和が求められます。
- ・駅や公園等の整備にあたっては、墨田区の豊かな水辺のイメージを活かしていくことが求められます。
- ・鉄道や高速道路の高架構造物の修景が求められます。
- ・区を特徴づける住商工混在の土地利用を活かし、生き生きとした下町の風景を大切にしていくことが求められます。
- ・由緒ある主要な庭園や規模の大きな公園等を活かし、周辺との緑の連携を促すことが求められます。
- ・商店街におけるにぎわいや統一性のある街並みを活かし、駅周辺では表玄関にふさわしい景観形成が求められます。
- ・近年建てられる、高層化する建築物等と既存の街並みとの調和が求められます。



< 隅田川 >



< 大横川親水公園 >

すみだの景観を区民とともに育むことが求められます

墨田区では、昔から培われてきた町会や地域のコミュニティ活動にもとづきながら、協治（ガバナンス）の理念によるまちづくりを進めています。

これらをふまえて、まちづくりとして総合的観点から、区民・事業者・区とが協働した景観まちづくりに取り組む必要があります。

【区民との協働にかかわる景観特性】

- ・公園愛護協定等において、区民との協働による公園の管理が行われています。
- ・町会による植栽帯の管理が行われている場所があります。
- ・NPO支援アドバイザー派遣等により区民活動を推進しています。
- ・より多くの方が利用しやすいよう、案内板の多言語表示や舗装の色などユニバーサルデザインに配慮しています。
- ・駅前再開発事業や地区計画など区内でまちづくりが進められています。

【課題】

- ・防災、住環境整備、ユニバーサルデザイン、コミュニティの活性化、産業振興等、地域のまちづくりと連携した景観まちづくりに、区民と協働して取り組む必要があります。
- ・協治（ガバナンス）の取り組みに対応し、区民、事業者等の新しい協働を促す場づくり、支援システム等の強化が求められます。



<小学生が描いたマナー看板>



<地区計画が指定されている北斎通り>

